

藤枝市長 北村正平 様

令和6年度の予算編成に向けて

提 言 書

藤 枝 市 議 会

はじめに

藤枝市は、一昨年度スタートした「第6次藤枝市総合計画」により、「“幸せになるまち” 藤枝」を目指すべく、様々なまちづくり施策を推進しています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、生活様式が日常に戻ったことで、「コンパクト+ネットワークのまちを創る」、「産業としごとを創る」、「ひとの流れを創る」、「健やかに暮らし活躍できるまちを創る」という重点戦略に沿った本市独自の施策がより一層推進されてきたことは大いに評価するところであります。

さて、来年は、藤枝市にとって大きな節目となる市制70周年、サッカーのまち100周年を迎えます。本年度の戦略方針でもある「未来への成長基盤づくり」、「次代を担う人づくり」が未来に向けて実を結び、「4K施策」の深化と合わせ、「幸せになるまち」がさらに推進されることを求めています。

つきましては、常任委員会ごとに、所管事務及び重点戦略事業等の調査を実施し、協議・検討を行いましたので、令和6年度以降の施策推進の一端に資することを願い、「提言」といたします。

令和5年10月11日

藤 枝 市 議 会

【総務委員会】

1. 地域防災力の強化

想定される南海トラフ巨大地震に対する防災意識の啓発と避難訓練は、新たに行われた夜間訓練等、多様な状況に即して行われており、更に推し進めて頂きたい。

また、近年に見られる風水害に対しては、想定される災害状況や災害意識は市内地区・地域により大幅に異なることから、市民の安全を確保するための情報を熟慮しながら、居住地に合った個別の災害時対応マニュアルにより、的確な状況判断の展開や避難を行うため、防災教育や避難行動訓練を重ねて実施されたい。

2. 選挙投票率の向上

「自分たちの社会は自らが率先して創る」を挙げて、若い世代の政治への関心を高めるため、中学校や高校で選挙制度や議員の仕事を身近に感じる機会を増やし、投票率を上げる政策を実施して頂きたい。

3. 新庁舎建設計画について

市民に優しく、効率的・経済的な新庁舎の建設は、私たちの目指すところである。今後の展開について、市民会館等の関連施設、市民サービスへの影響、開かれた市議会とする構想等、予算立案や市民主体の将来ニーズ、環境への配慮についての方針や計画を議会に示して頂きたい。

【健康福祉教育委員会】

1. 教育部門について

教員の負担軽減のため支援員とスクールサポートスタッフの大幅増員を図りたい。
また、若者に違法薬物・ドラッグが蔓延し始めている状況を鑑み、教育現場での啓発を強化されたい。

2. 子育て環境の整備について

子育て世帯の負担軽減のため、こども医療費助成の更なる拡充を図りたい。
また、保育士不足が深刻化しているため、全ての子どもが保育を受けられる体制づくりのために独自の処遇改善の取り組みを進められたい。

3. 生活困窮者に対する施策について

生活困窮者の中には市税や水道料金などの支払いに苦慮され滞納されている方が見受けられる。福祉部門において把握しておられるとは思いますが、生活再建に向けて、他部署と連携しての対応をさらに強化されたい。

4. 病院について

コロナ患者受入のための空床補償は大幅な縮小となるが、引き続き中等症以上の患者の受け入れを継続し、公立病院として地域住民の命を支える先頭に立っていただきたい。

【建設経済環境委員会】

1. 風水害への対応

近年、全国各地で線状降水帯による大雨により、土砂災害や河川の氾濫が発生し、多くの人的被害が発生している。本市においても豪雨により繰り返し床上/床下の浸水被害を蒙っている地区が存在する。こうした浸水被害の反復を根絶するための抜本的な対策として、降雨量と内水氾濫・外水氾濫に関する大規模なシミュレーションを活用した総合的な治水計画を、志太地域流域治水協議会・志太榛原地域大規模氾濫減災協議会と連携して策定されたい。

流域治水の例として、当委員会で今夏視察した兵庫県高砂市において行政・市民・事業者が一体となって約300億円の費用と10年間の歳月をかけて実施された、シミュレーションを徹底的に活用した「流す対策」「貯める対策」の併用による総合治水による、第一段階で床下浸水の解消、次の段階で床上浸水の解消と2段階で達成したというビジョン設計・計画の在り方を参考にされたい。

2. グリーン・トランスフォーメーション(GX)の推進

「地球沸騰化」の酷暑を迎え気候変動は危機的な状況であり、脱炭素への取組は一刻の猶予も許されない。ゼロカーボンシティを宣言する本市としても、第2次藤枝市地球温暖化対策の目標達成のために、適切なマイルストーン設定と厳格な進捗管理に基づき、環境部門のみならず産業振興部門、農林部門、施設管理部門など全庁体制をもって気候変動に適応するGX施策を推進されたい。

特に、本市におけるCO2排出の相当量を占める中小企業の脱炭素化のために、国・県と連携してエコアクション21の推進支援も含め、事業者へのGX推進支援の一層の取組を図られたい。

また、全市を挙げてGXを推進していくためには、市民の意識向上や協力が必要である。今夏視察した長岡京市では様々な機会を通じてイベントや啓発などされていて、企業を含めた市民意識も高いことから、本市としても同様な取組で更なる市民意識向上のための啓発を求めたい。

3. 中心市街地再開発と旧市街地総合再生の推進

中心市街地再開発と旧市街地総合再生は、これからの藤枝市を築き上げるまちづくりの中核事業であり、定住人口・関係人口の増加に必要不可欠である。

中心市街地再開発について、将来的な居住人口の減少や駅周辺の賑わい喪失という課題を解決するため、「藤枝駅前一丁目6街区・9街区第一種再開発事業」による安全・快適・便利な魅力ある居住空間の拡充と、駅前未来共創ラボ「フジキチ」や藤枝市産学官連携推進センター等とともにビジネス創出のさらなる推進を図られたい。

旧市街地総合再生について、道路・公園等や街並みの景観向上というハード面の整備により、多くの人々が「訪れたい」「住んでみたい」という魅力あふれるまちづくりの計画を着実に実現してもらうとともに、官民共同となってリノベーションや土地活用による有益な空間形成と商店街の活性を大きく推進されるよう取り組まされたい。

4. 交通渋滞解消にむけた基幹道路整備

現在、藤枝南部地区の交通渋滞は、大井川・焼津・藤枝スマートインターチェンジの開通により、県道、高洲―和田線の交通量は大幅に増加し、車の渋滞は一層激しく通勤トラブルや、交通安全面から見ても危険な状況にある。小川島田幹線（葉梨―高洲線から焼津市境までの延伸約 800m）の接続により、大幅な南部地区の渋滞緩和を図りたい。

すでに焼津市側の区間工事はほぼ完成し、残すところは本市区間の整備を待つのみとなっている。この区間について、県道高洲和田線の代替路線として、県に早急に施行するよう強く要望されたい。

5. 本市経済の回復と物価高騰対策

コロナ禍による経済の停滞から脱却する間もなく生じたウクライナ情勢は、疲弊した経済にさらなる打撃を与え、エネルギー費・原材料費・人件費等の高騰は未だ解決の糸口が見つかからない状況にある。

こうした状況に苦しむ市内事業者に対して、コスト負担の緩和や価格転嫁の支援について、国・県と連携して対策に取り組まれるとともに、キャッシュレス決済導入の支援やそれに伴う手数料コストの軽減支援等、消費喚起に向けた商店への支援にも取り組まれたい。